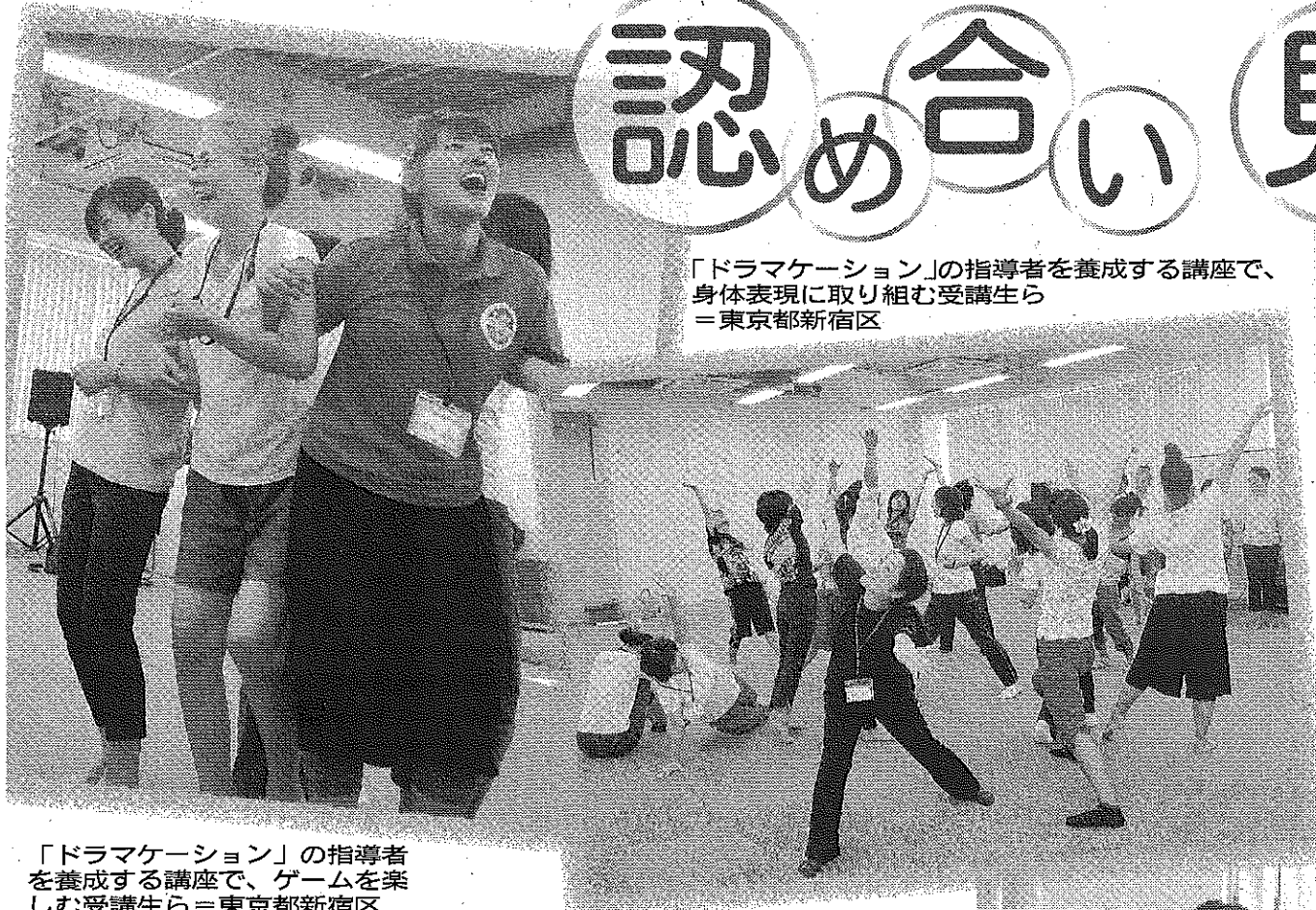


認め合い 見つけ合う

「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、
身体表現に取り組む受講生ら
＝東京都新宿区

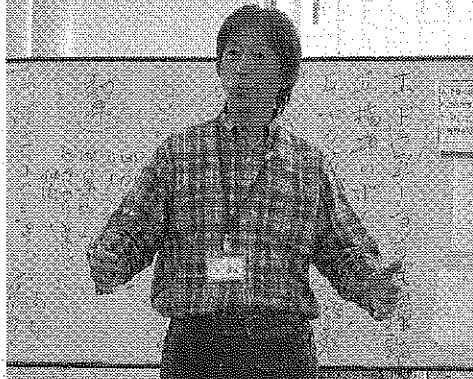


「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、ゲームを楽しむ受講生ら＝東京都新宿区

コミュニケーション能力の向上を目指し、芝居の要素を取り入れたユニークな教育法「ドラマケーション」が注目を集めている。これまで主に小中学校などで活用されてきたが、就職活動対策などにも用途が広がりつつある。

「必ず誰かの体に触ってくださいね。では、花を表現して。はい、ストップ」。大学生や教員など各地から集まった20～50代の28人が、集団の中で触れ合いを感じながら身体表現を行う「フンタッチ・オブジェ」に取り組んでいた。

「必ず誰かの体に挑戦していた。彩なメニューに挑戦していた。ドラマケーションが本格的に取り組まれるようになったのは2007年ごろ。人間関係を育むことを目的とし、気軽に楽しくできるのが特徴だ。名称は、ドラマとコミュニケーションを組み合わせた造語。



指導者養成講座で講義するドラマケーション普及センターの正嘉昭さん＝東京都新宿区

「ドラマケーション」広がる活用

での良好な人間関係をつくるために企業が研修で活用したりしている。同センターの講座は07年にスタート。現在約180人がファシリテーターに認定されている。

受講生で、富山県東部教育事務所勤務の寺島紀子さん(46)は「ドラマケーションで学んだことを生かして、地元を生徒たちに友達の気持ちを受け止める力を植え付けたい」と期待を込める。

同センター講師の正嘉昭さんは、ドラマケーションの効果について「すべて遊びなので、リラックスでき、集中できる。自分に素直になって動くことで表現力がアップする」と話す。

注意や余計なアドバイスはせず、本人の意思を尊重するという。正さんは、指導者のポイントとして「うまい、下手と評価せずに相手を認めること。認め合いの中で、つたない表現の中にも面白さを発見し、お互いに見つけ合うこと」を挙げています。